

同窓会の繁栄を目指して



東京庄原格致会会長
兼利卓蔵
【略歴】
西城町出身、母校二十八年卒業。趣味はクラシック音楽。

同窓会会員の皆様方におかれましてはご健勝にしてご活躍の事とお慶び申し上げます。平素、東京庄原格致会の運営に對し絶大なご協力を賜わり、役員一同感謝しております。十八年度事業計画は滞り無く進み、総会及び各同好会の開催も皆様方の積極的な参加によりまして楽しい懇親の場が出来ました事を心よりお礼申し上げます。

昨年度総会時にご披露致しました通り「東京庄原格致会」の会旗を作成いたしました。

このデザインは本校の学祖小田源吉先生宅の家紋「五三の桐」を象つたもので創造と伸展とを象徴するものだそうです(母校の現校旗と同じ。本校ホームページより)。この紋章は母校の前身「格致学院」から現在まで続いているものです。学制改革時に格致高校・庄原高校・西城高校の三校が統合した期間に校章が別でした。現在の校章にもありますように「紫に白の旗」です。作成につきましても、本同窓生の方々が多忙にも拘らず、色々と業者との交渉をして頂き出来た物です。本会を永く維持していく上にも大いに活用して頂きたく思います。

人それぞれの思いはあると考えますが、青春期を古里備北の地で育まれ、学生歌(旧格致中学高校歌)の中の一節「行末遠く思いては希望の星の影さやか」を胸にこの都会で激動の中を毎日頑張つて居られる同窓生の皆さまにご苦勞様の念で一杯です。本会の運営を任せられています役員と致しましては、同窓生の皆様が何時の日でも時間の都合を付けられ、総会や同好会へ参加され、懐かしい同窓生と集まれる事も心の癒しに、又仕事上の活力になるとも考えます。

どうか一人でも気楽に多くの方々が参加される様お待ち致します。今後、本会の一層の活性化と多数の同窓生の参加を考え、会員の発案により、各方面で活躍されている陶芸家、音楽家、画家等同窓生の方々に案内を願ひし、日本芸術文化に触れる「文化同好会」なるものをつくり、同窓生の活躍の場にて「見る、聴

く、作る」を通じて親睦を計り楽しみたいと考えています。皆様の賛同を得たいものです。

ご存じのように我が古里も過疎化が進み、ある新聞によりますと残念ながら市の財政状況は全国でワースト二十七位やらの事です。何か手立ては無いのかと古里を思い出すものです。考えます。これには母校格致が左右すると自負いたします。母校のインターネット等の情報によりますと、十八年度卒業生の状況は進学を含め生徒、先生及び父兄が一体となつて活気ある教育に真剣に取り組まれ、多少結果を出された様で喜ばしいことと思ひます。私共同窓生として見ますと後輩達が如何様に頑張つているか大変に気になるものです。その後輩達が今後社会の指導者になるべく、格致精神を教育される様、母校の発展の為に寄り添うたいです。

いっしょに



広島県立
庄原格致高等学校校長
河野正憲
【略歴】
昭和四十一年向原高校卒業
東京理科大学卒業後教職に
平成十三年向原高校長
平成十七年四月より現職

東京庄原格致会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。昨年の東京庄原格致会総会では大変お世話になりました。お陰さまで楽しい時間を過ごさせていただきました。皆様には、平素から本校教育の充実と発展のためにご理解とご支援をいただき感謝申し上げます。さて、本校は、今年創立百十年を迎えます。小田源吉先生が、古代中国の「大学」という書の中に書かれている「格物致知」つまり、「物事に真剣に取り組み、知や技を我が物にしよう」という教育の理想を高く掲げて、明治三十年十一月一日に格致学院を創立されました。

現在まで、「格物致知」の精神のもとに、実に一万五千名をこえる有為な人材を社会に送り出しています。十月三十日には、百十周年記念行事を計画して

いますので、同窓生の皆様のご出席・ご協力等よろしくお願いいたします。また、本年度も、希望に燃えた百十五名の新入生を迎え、また新たな出発をいたしました。この一年間の主な行事は、次のとおりです。

- 四月……入学式
- 五月……新入生オリエンテーション合宿
- 五月……新入生歓迎遠足(七塚原)
- 五月……格致祭(文化祭)
- 六月……県総合体育大会
- 七月……クラスマッチ(球技大会)
- 八月……学習合宿(二年・三瓶青年の家)
- 九月……格致祭(体育祭)
- 十月……百十周年記念行事
- 十一月……修学旅行(二年・関東)
- 十二月……センター試験対策合宿(三年)
- 十二月……校内ロードレース大会
- 三月……クリスマスコンサート
- 三月……センター試験
- 三月……卒業式

本校は「自律し挑戦する若者の育成」を目的とし、「学力向上」「自律性・社会性の育成」「開かれた学校づくり」の三点を目標に掲げ、教職員の力を結集して、地域から信頼され、選ばれる学校づくりを目指してまいります。

学力向上については、今春の卒業生の状況は、国立大学の合格者は、二十八名という結果でした。私立大学につきましても、関東関西の難関大学へ多数合格しました。卒業生それぞれが進路実現をめざし最後まであきらめずに頑張りました。また、クラブ活動において、今年度も全校生徒の九割以上が加入し、活発に活動しています。この春の地区総体では、大変活躍し、十一の部が県大会に出場しました。なかでも、なぎなた部、ソフトテニス部は中国大会に出場となりました。

文科系クラブにおきましても、写真部は写真甲子園と呼ばれ、北海道で行われる全国高校写真選手権大会に、中国地区代表として出場します。また、全国高校総合文化祭にも県代表として出場します。このように先輩諸氏の築かれた文武両道の伝統を受継ぎ頑張っています。今後とも、庄原格致高等学校の発展に向けて最大限の努力を重ねていくつもりですので、皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

いよいよ、先輩諸氏の築かれた文武両道の伝統を受継ぎ頑張っています。今後とも、庄原格致高等学校の発展に向けて最大限の努力を重ねていくつもりですので、皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

なお、本校の情報につきましては、インターネットで「庄原格致高等学校」を検索し、ホームページをご覧ください。最後になりましたが、東京庄原格致会のみならずの発展と、会員の皆様のご健康・ご多幸を心からお祈り申し上げます。

格差つれづれ



同窓会会長
伊達正治
【略歴】
昭和十八年卒業。母校の校長及び他の高校長を歴任。広島県立公立高等学校校長協会会長。文部大臣教育表彰・勲四等瑞宝章叙勲受章。現在、庄原地区福祉協議会会長。

会員の皆様にはお元気でご消光のことと拝察申しあげます。このところ国会での政治の流れは速度を増してあわただしく消化不良気味に法案が強行採決されていますが、故郷の季節は激動する人の世におかまいなくゆつたりと青葉の候へと移ろっています。

敗戦後六十余年経過した我が国は今、経済大国・繁栄社会と言われますが、一方現在では地域格差、教育格差、所得格差など格差社会と言われ、政治の貧困がさまざまな社会問題を惹起しています。いつだったか私は所用で大阪に行つて、淀屋橋港から水上バスに乗船したとき、心痛く目に映つたのは両岸にあるテント暮らしの路上生活者群でした。

時代は違いますが私は萬葉集の歌を思い出しました。即ち「風まじりの雨降る夜の、雨まじり雪降る夜は、すべもなく寒くしあれば……(略)……斯んばかり、術なきもか世の中の道」「世の中を憂いとやさしと思へども飛び立ちかねつ鳥にしあらねば」。これは貧窮問答歌の長歌の一部と短歌です。みじめな姿で生活するのは辛く恥ずかしいが鳥でないから飛んで逃げられないからこうしてウジウジ暮らしているのだと、庶民の惨澹たる生活を詠んだものです。私は風雪に耐えて生きたこの萬葉人の心は、現今の庶民の生活の心情にも相通するものがあると思ひます。

今日、六千万件を超える年金加入者不明事件が庶民の不安を増大していますが、これは許せない

政治の怠慢・腐敗であります。また、住民税や各種保険料の増額や母子・老齢加算などの廃止は社会的弱者である庶民いじめの政治と言わざるをえません。耳ざわりの良い政治家の掛け声に幻惑されて招いた私たちの不明も反省しなければなりません。

昔「青丹よし奈良の都は咲く花のほふが如く今盛りなれ」の歌の裏にもあの天平時代は文化の華が咲き乱れた太平の世でしたが、豪族特権階級が政権を独占したために、庶民が塗炭の苦しみにあえいだことは歴史が物語っています。

政権が長期化し偏向すれば政治は腐敗して世の中は乱れます。政治家になれば「丑戸」になる、即ち私財を投じて世のため人のために尽くすので貧乏になり井戸と堀しか残らないと言うことです。ところが現在は政治家になれば私財を増やし財産家になる世の中です。政治の貧困はこころあたりに起因するのではないのでしょうか。

カネと政治の問題は一向に解決されないどころか、弁舌巧みにまやかしたりスリ抜ける詭弁と政治の問題が低次元な政治家の品格を露呈しているのは、誠にやるせない思いです。私は子供の頃から「嘘は泥棒のはじまり」「障子に目あり壁に耳あり」「天知る地知る己知る」「情は人のためならず」「弱いものいじめは卑怯者」などと口やかましく躰られ、徳育されて成長したものです。

世人の範たるべき政治家は国民に徳育だと規範意識を言うまえに、まず自分自身が襟を正し反省して人間としての在り方・生き方を徳育して「嘘」を言わない品格を磨いて庶民のための政治活動に専念すべきです。

私たちは教育再生会議の官製提言をまつまでもなく、日常の家庭や社会生活の中で「嘘」や「いじめ」はいかに恥ずべき悪業であるかを徳育する力はある筈です。

二人は皆のためには一人のためには一人の「いにしへの思いやりと信頼を大切に」する日常生活を心がけ、政治の貧困がもたらす格差に気を配りながら庶民による生活環境づくり



七塚のボブラ並木

り汗を流し、未来を背負って生きる青少年の範となりたいたいものです。
遙かなる関東の地から若き日の思い出多い母校格致に心寄せられる会員皆様のご健勝を祈り欄筆いたします。(六月記)



杉山赤富士先生

二十年卒

八谷 義 登



〔略歴〕
昭和三年(一九二八年) 比婆郡峰田村(現庄原市峰田町)生まれ。昭和十六年(一九四一年) 県立格致中学校入学。昭和十九年(一九四四年) 三年終了。海軍甲種飛行予科練習生(十四期)として松山海軍航空隊へ入隊。昭和二十年(一九四五年) 終戦。一九四七年広島通信講習所高等部卒。一九五六年日大卒。

〔画歴〕
一九八〇年東京都民美術展初出品初入選。一九九〇年日本現代美術協会会員。一九九九年第十八回日展展覧会賞。二〇〇一年第二十回日展展覧会賞。二〇〇二年第二十二回日展展覧会賞。二〇〇四年中日友好絵画展(北京)。二〇〇四年台湾、高雄市第十五回国際美術交流展招待出品。個展14回。現在、日本美術家連盟会員、日本現代美術協会常任理事、審査員。(美術に関する別名は八谷達憲)

昭和十六年春、広島県立格致中学校へ入学した私達に、校庭に咲く万葉の桜はすでに風雲急を告げていました。十二月八日、真珠湾攻撃、早朝凍てついた校門を入ると一番に目を射たものは、日米戦争勃発を知らせる黒板の檄でした。
それからは、福山連隊配属の陸軍現役将校の丸山中尉を筆頭に軍事教練はより厳しくなり、各教科目も戦事態勢、息衝く間もない連日です。しかし癒しの一途はありました。いかなる苛酷な環境も浄化する若さです。日本に固有の気象、春夏秋冬の四季があります。

校庭を取り巻く松原原頭に立つて大気を満喫し、小鳥の囀りに耳を貸せば青春の息吹きが脈脈と鼓動してきます。小学校時代から好きだった図工の時間も救ってくれました。

将来は画家になりたいと思い始めたのは、その頃からでした。

図工担任は杉山先生。ご本名は記憶になく雅号が杉山赤富士先生、東京美術学校(現東京芸大)出身、日本画家であるという情報は、当時の田舎では非常に強い印象として残りました。その残滓は、プラス思考で後後まで私の心の中に燻っていたのかも知れません。

画家になりたいという希望は、戦争という世相には無力。敗戦後、国力復興への国民総一路邁進の凄まじさにも、自家の糊口をしのごく生活が先行のにも絵描きは無用のものでした。

焼け棒杭に火がついたのは、一九七〇年代五十歳になったころ、精神的にも幾分か余裕ができて上野の美術館へ知人の公募美術展を観に行った時です。

各県公募、全国公募を問わず、年一回の美術展は出品作者の一年間研鑽と努力を発表する場です。素晴らしい大作、傑作ばかりです。しかし、各美術団体とも所属会員の作品と一般応募出品者は審査の結果入選した作品が展示されます。斬界の大御所、経験豊富な技巧作家、新進気鋭の作家、初入選の作家と多様な作品群ですから、優劣があるのは否めません。

美術館を出たとき、知人の作品は、三十数年燃り続けた私の心の導火線に点火してくれました。知人は当時、東京都美術展の準会員でしたが、その作品を見たとき「これだったら私が描いた画でも入選するのは」との自惚れが制作意欲を刺激して、翌年同展へ初出品初入選一九八〇年のことです。



第25回日展展 (2006) 御岳溪谷

絵の教室や先輩の指導なく独学で入選し現在に至っているのは、私にとっては少年時代田舎の小学校や中学校の絵の教育が、手本を見て習う臨画教育だったお陰だと思っています。図画の教科書は、山本鼎、石井柏亭、南薫造、寺内萬治郎、中

酒井会計事務所

税理士 酒井 久 幸
(昭和 25 年卒)

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町
2-13-4
電話 (03) 3255-8995

洋光繊維株式会社

代表取締役

木 村 貞 寧
(昭和 25 年卒)

〒130-0004 東京都墨田区本所4-9-10
電話 (03) 3623-3176

西利雄、歴史に残る錚錚たる先生方の立派な作品で満ちていたのです。誰でも理解できる写実的な具象画を正確に練習してきたことが自然にデッサンの素養と役立っていたのでしよう。趣味は絵しかなかったのが、会社の出張時にもスケッチブックと簡単な水彩用具は必需品といたしました。

最近、年金の問題で騒然としています。年を重ねると誰もが経験することですが、金の手だけでなく、日残りで暮るるに未だに遠し。時間の有効使用方法が大事なことだと思えます。幸いなことに私には絵があります。来年は傘寿の年を迎えますが、私の絵心を開花させて戴いた杉山赤富士先生の面影は永遠に私の宝です。

故郷庄原を彷彿とさせた 田園風景のある アフリカでの医療協力

三十七年卒

天野 皓 昭



【略歴】
庄原本町生まれ、昭和四十四年信州大学医学部卒業、山梨県内で十年間病院勤務医後、横浜市立大学医学部で寄生虫学の教鞭をとり、平成十五年退職、現在横浜市内の老人保健施設施設長として勤務

平成十三年八月から平成十八年四月まで四年八月までアフリカのケニアに国際協力事業団(JICA)の国際寄生虫対策プロジェクトのチーフリーダーとして日本寄生虫学会より派遣され、アフリカの医療協力援助に参加しました。ご存知のように、アフリカの多くの国は、エイズやマラリアなどの感染症による死亡率が高く、未だ貧困にあえぎ、多くの国際支援を得て対策を進めております。プロジェクト発足の背景は、バミングラム・サミットで故・橋本総理が発展途上国への寄生虫対策支援の必要性を提案され、コミュニケーションに盛り込まれたのを受け、日本政府として三つの国際寄生虫対策センター設立を決定したことにあります。その一つが我々のプロジェクトであり、その目的は感染症対策にたずさわるアフリカ人の人材育成でした。人材育成のため

には、ただ講義をするだけではなく、モデル地域で対策の成果を実験してもらい、研修参加者が自国で頑張ろうというモチベーションを高める事が何よりも大切でした。

着任後はモデル地域の候補地探しから始めました。着任後間もない日曜日、首都ナイロビからケニア山の方向(北西)に現地運転手の運転で車を走らせました。コヒー畑の丘を越え、遠くにケニア山が見渡せるところに、庄原地方の水田風景(小さな田んぼが、はるか彼方までをつなげた)を思わせる、懐かしい田園風景を目にしました。翌日、ケニア側スタッフにこの話をしました。その土地こそ、以前日本が農業協力支援で開発した米作地帯で、農業生産は増加したものの、同時にマラリアや住血吸虫の寄生虫が蔓延し、農民が苦しんでいる地域だったので(広島県の片山地方(現在：福山市の一部)にも住血吸虫病があった)。ケニア側との協議で、この地(ムエア)をモデル地域に決定しました。

土地の広さは、東京山手線の内側よりも広く、地域内に約百校の小学校がありました(約四万児童数)。対策開始前のサンプル(糞便)検査では、感染率の高い学校では八十%以上が寄生虫に感染しており、平均でも四十%を超していました。県・郡の保健局、教育委員会と協議し、校長会や地域住民集会を通じて、寄生虫病対策の重要性を話し、集団駆虫を各学校の教師の協力を得て開始しました。その効果は、我々が想像した以上で、治療開始後半年後の県スポーツ大会で、この地方の学校は毎年最下位であったのが、一挙に二位になり、県教育委員長が、直接報告に来るほどに学童の発育改善が認められました。周辺の地域から選出された国会議員からも、自分達の地域でも実施するよう

に強い要望が出されました(こちら辺りは、日本の政治家と似ている)。しかし、プロジェクトの予算規模やスタッフ数から考え、またプロジェクトの目標はあくまでも人材育成であること、を説明し、さらに国の必要性を説明し、お引取り願うという場面もありまし



上野公園の現状

里親になって

三十七年卒

平川 智子

(旧姓 向田)



【略歴】
高野町出身。昭和四十二年四月から保健師として保健所や町、その他に勤務

八歳と三歳の男の子と寝食をともにする生活をするようになって、三年が経過した。最初は会う人ごとに「お孫さんですか」の言葉に曖昧な返事を返しながら、いつ頃から「預かって世話をしてるんです。」も気を遣わないで話せるようになって、やっと地域にとけ込みつつあることが、実感できるようになった。

夢中で過ごした三年だったが、今、振り返ってみると、里親になった当時のことが思い出される。夫の定年退職に向けて、早めに退職後の計画を立て、それなりの準備をしてきたつもりであったが、やはり、絵に書いた餅で、計画通りには進まず、見直しを迫られる状況にいたった。もともと、二人の子供が家を離れて、夫婦だけの生活になったのを機会にフォースター・ペアレントに参加はしていたが、直接にかかわることは少なく、物足りなさは感じていたこともあり、夫婦で出来ることを探していたところ、里親のことを聞く機会があった。始め、夫は消極的で直接的な世話については関心を示さなかったが、中高年の人生ステージに「世話」のキーワードがあることを手がかりに話し合った。

孫が居れば気持ちは受け入れられない状況

ホームページをカンタン作成!

るんるん!

ウェブマスター

<http://www1.webasp.jp/>

飯能ケーブルテレビ(株) 埼玉県飯能市小久保19-1
(飯能・日高) TEL 042-974-3611
41年卒 和泉 由起夫



西葛西・井上眼科病院

院長 宮 永 嘉 隆

(昭和 28 年卒)

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西5-4-9
TEL 03-5605-2100 (代)

だったかもしれないが、説得にに応じてくれた。こんな年齢で里親になれるのが最初の心配ごとであったが、里親制度について問い合わせをしてみたところ、七十歳台の人も、里親として子供の養育にあたりてやることを知り、相当世代が離れてのかかわりに意を強くした。

登録手続きが終わってからは、子供が来るまでに相当時間待たなければならぬと、先輩里親から聞いていたので、非常勤の仕事は続けていたところ、五ヶ月後に初回対面、その二週間後には受託と、準備もほとんど出来ない状態で、五歳六ヶ月の男の子の養育に当たることになった。

生活が始まったが、ほとんど生育に関する情報がない中で、手探りのかかりとなった。まったく受けていない予防接種の計画、眼科受診、治療、歯科受診、治療、小児科受診と、やらなければならぬスケジュールをこなすことで、日々があつたという間に過ぎていった。

なんのモデルもない中で、一番困ったことは、あそび、テレビの見せ方、おもちゃの与え方などで、子ども世代と初老期世代の大きな隔たりに感じた。

もちろん、子ども世代の親の価値観と私たちの世代の価値観の違いも戸惑いを感じながら、徐々に慣らされていったように思える。

兄弟の絆が高められれば...とのおもいで、一年後に、乳児院にいた一歳十ヶ月の弟を引き取り養育することになった。こうして、初老夫婦と男の子二人の生活が始まったわけである。

ある理由で、ある日、親の元で暮らすことが出来なくなつた子どもが、どんな思いで私たちのところに来たのかを思うと、かわいそうとの思いだけでなく責任を含め複雑な気持ちになつたものである。

いざ、生活が始まってみると、今までどんな生活をしてきたのかを何も知らない状態で生活を共にすることの困難さに、大いに戸惑つたものである。生活を始めるから気づく性癖や発達上の問題を、関係者になかなか理解してもらえず、悩むことの多い日々でもある。

兄の方での悩みが多い分、弟の成長、発達、ちよつとしたしぐさやことばに触れることが、初老期にある私たちには、得がたいやすらぎや笑いや喜びを与えてくれることである。

親元に帰れる日はまだ見えてはこない。

兄の方と信頼関係がなかなか築けにくい状態や、顕在化した障害で、養育上の悩みは解消されることが少ない。今後どこまで世話が出るか、そ

ろそろ限界を感じながら、成長、発達を楽しみに、今日も四人の生活が続いている。

ゴルフとの出会い

四十五年卒

福場 泰 蔵



【略歴】
 庄原市西本町出身。日本大学芸術学部卒業後、四十九年東洋工業（現マツダ）に入社。平成十三年に退職し、現在はモータースポーツPR会社勤務。

「会員だより」の依頼を受け、さて何を書こうかと妻に相談したところ、「アナタに書けるのはゴルフくらいじゃないの？」と言われ、私自身も妙に納得してしまつた。今年で五十六歳になる私にとって現在一番の趣味はゴルフ。と言つても、ゴルフを始めたのはそれほど早くなく、四十七歳くらいの時だから、始めて約九年というところか。始めたきっかけは仕事であった。

当時私は自動車メーカーのマツダに勤めており、四十七歳の時に広報部に異動になったのである。赴任して先輩に最初に言われたのが、「福場、ゴルフできるか？」という言葉であった。仕事の説明はさておき、それが最初の質問。私は唖然として「いや、できません」と言うと、「すぐに始めろ」。

当時広報というセクションはジャーナリストやマスコミ関係者とのコミュニケーションを図るためにゴルフを多用しており、ゴルフは業務の一環であった。それまでゴルフに全く興味の無かつた私だが、仕事のためと言われれば仕方がない。早速その週末から近くのゴルフ練習場のレッスンプロに教えてもらおう事となつた。毎週土日にレッスンに行つてはいたのだが、不思議な事に小さいボールを遠くに飛ばすというこのスポーツの清々しさに徐々にのめり込んでいったのである。

元来好きな事には熱中する性格で、始めた頃は練習でボールを打ち過ぎて指をうまく曲げることができず、毎日バンテリン（関節痛の塗り薬）を指に何度も塗つていた。それを妻は、「そこまでやらなくても...」という冷やかな眼で見ているように思う。

しかし、半年後にはその妻が、そしてその後長女も始め、私同様、完全にゴルフにはまつてしまつたのである。このようにして我が家の話題

はいつの間にかゴルフが大きく占めるようになった。今では月一回の家族ゴルフが恒例となつている。夫婦、親子の円滑な関係は、ゴルフの功績が大なのである。

実はマツダ時代、ゴルフとの関わりは広報に異動した時が最初ではなかつた。一九八〇年代後半、世はバブル絶頂期の時代に私はマツダの宣伝部に所属し、イベント関連の業務を担当していた。その担当業務の中に「マツダジャパンクラシック」というゴルフトーナメントがあつた。このトーナメントは、全米女子プロトーナメントの最終戦を日本で開催するというもので、往年のゴルフファンならよくご存知と思うが、米国からナンシー・ロベスやベッツィー・キング、日本からは岡本綾子や森口祐子という、そうそうたる選手が参加する国内有数の女子トーナメントであつた。らしい。当時興味が無かつたので、それくらいの記憶しかない。

そのトーナメントでマツダの主担当だつたのがゴルフを全く知らないこの私。おかげでゴルフ用語だけは詳しくなつたが、トーナメント開催中はゴルフ場に居ても競技を見ずに、クラブハウスの中でじつと仕事をしていたという次第である。今考えると、ナント勿体ない事をしたものか。今の自分であれば、仕事を放り出してでも女子プロの競技を見ていただろうに...残念！（ん？よく考えてみると、ゴルフを知らなかつたからこそ仕事ができたととも言える。）

こうしてゴルフに縁があつても自分でクラブを握ることはなく、結局四十七歳という遅いスタートとなつた。遅いスタートだから今後はできるだけ長くゴルフを楽しみたいと思つている。

ゴルフはよく「反省のスポーツ」と言われるが、多くのゴルファー同様、私も毎回反省しきりである。仕事でもこんなに反省することは少ない。何度やっても満足できないゴルフはできないが、反省を繰り返して、少しでも上手くなるかと思う事が長くゴルフを続けていく秘訣なのかも知れない。

さて、二〇三四年、東京庄原格致会の年二回のゴルフコンペに妻と一緒に参加している。このコンペはいつ行つてもとても楽しいコンペであり、参加される方々がスコアは別（失礼！）として、ゴルフを一杯楽しんでおられる。このコンペに行くとき、これからは長くゴルフを楽しみたいという私のお手本となる方々がたくさんいらっしゃるように思え、何をしても毎回参加させて頂いているのである。これからも東京庄原格致会の諸先輩方にゴルフの楽しみ方を教えて

自動車販売会社

株式会社 ヨシダ

代表取締役 吉田 玲 咲

(昭和47年卒)

〒123-0844 東京都足立区興野1-15-10-203
 TEL・FAX (03) 3840-0977
 携帯 090-4713-0977
 E-mail: y.reiji@helen.ocn.ne.jp

どんな小さな工事・修理でも、お気軽にご相談ください

ガーデン&エクステリア

0120-454295 お気軽にどうぞ



株式会社 八王子装建

代表取締役 西谷 光 徳 (昭和46年卒)

諸官庁工事指定店 10年保証 お見積り無料 迅速対応

八王子市安町1-32-19 TEL 0426(45)4295 FAX 0426(44)8549

頂きながら、家族円満の秘訣であるゴルフを続けていきたいと考えている。

この会報をご覧になっているゴルフ好きなあなたも、次回のコンペから一緒にいかがですか？

郷士だより

新しい故郷のシンボルに

三十四年卒 竹本健三

東京地域の格致会の皆さん今日は!!
同期の迫田芳徳氏から、庄原市の話題を知らせてくれないかと電話をいただき、昨年の同窓会以来の声を聞き、非常に懐かしき思いをめぐらせた次第です。

さて、庄原市も平成の大合併に紆余曲折はあったものの乗りそこねることなく、比婆郡の東城町・西城町・比和町・高野町・口和町と甲奴郡の総領町と合併したことはご承知のとおりです。

旧市長から引続き新市長に選出された滝口季彦市長は、選挙公約の一つであるという「市庁舎」の建設を実行に移すべく、議会等に働きかけました。しかし、北海道で発覚した夕張市の財政破綻のように、市民からは「第二の夕張」にならないかと、大きな不安（建設予算三十九億円のため）の声が出されたスタートとなったようです。市長は、綿密な財政分析と財政計画により「第二の夕張」にはしないと強い決意をもって、具体的な計画を発表されました。計画により、具体的な計画を現庁舎の北東側で県道に沿って建設され六階と見る見込みです（別添図参照）。

この設計コンセプト（概念）は

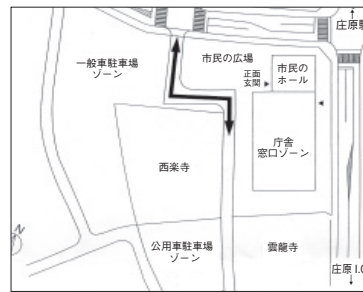
- ①市民に開放された空間の確保
- ②防災拠点機能の確保
- ③機能的な動線計画（移動の円滑化）
- ④ユニバーサルデザインの導入
- ⑤窓口機能の低層階への集約
- ⑥議会機能独立性の確保
- ⑦各機能・部門間の連携への配慮
- ⑧新エネルギーの導入や省エネルギー対策など経済性の確保
- ⑨周辺環境への影響

をもって具体化し、本年十月の着工を目指しておられます。

新庁舎の完成は平成二十二年三月の予定となっています。これが新しい「ふるさとのシンボル」となりますよう、諸兄と共に大いに期待しています。尚、現庁舎は昭和三十二年に竣工して以来五十年が経過しており、耐震性にも問題がある建物となつています。

終わりになりますが、今年四月より市の副市長に格致高四十四年卒の国光拓自氏が地域振興部長から就任し、辣腕をふるっておられますことを報告して、庄原市の近況報告にいたします。

新庁舎配置イメージ図



同好会だより

第三十六回東京庄原格致会ゴルフコンペに優勝して

三十五年卒 亀井勲三

昨年春、四国八十八箇所観音霊場を巡礼した。弘法大師（空海）が苦行の末、開山したお寺だ。白装束に身を固め巡礼する姿はおなじみだが、その昔は車など無く修行しながら命がけの巡礼だった。途中道端で、のたれ死にする者も多く、死んだらすぐに葬儀ができるように死出の白装束だったらしい。その風習が現在も続いている。巡礼の主な目的は精神修養にあり、ひとつ一つのお寺には、長い石段が在る。そこをあえぎあえぎ登りつめる。本堂に着いた時の爽快感は又格別であった。苦勞は後に必ず報われる」ことの教えのように思えた。

去る四月二十日、埼玉県飯能グリーンカントリークラブで「東京庄原格致会ゴルフコンペ」が行われた。参加者二十二名、曇天。気候はまさに春爛漫、風に舞う八重桜の花びらが緑のベントグリーン上にピンクの色香を乗せて走り、正に至福のひと時であった。幸いパートナーに恵まれ、スコア「84」でベストグレイス優勝の栄に浴した。この会での優勝は三度目になるが、「勝つ」ということは何度経験しても嬉しいものである。思えば三十六歳でゴルフを始め、紆余曲折を重ねてきた。元々、高校入学当初から柔道を始め卒業時に二段であった。修行の結果、柔道七段になった。途中剣道三段、杖術初段も取得した。これも精神修養のひとつであった。武道も厳しく難しいが、ゴルフもまた厳しく難しい。ゴルフを始めた当初から基礎体力は、人並み以上のものを備えていたと思う。そのせいか力いっぱい振ればその力に忠じて球の飛距離は伸びるものと錯覚していた。右に左にまとまりのない球を何年も打ち続けた。ゴルフはメンタルなスポーツと云われる。技術だけ磨いても精神面が伴わないと上達は無い。これらは車の両輪のようなものだ。

当初、上達するには球を沢山打つ事だと錯覚して、一日に二、〇〇〇発打つたこともあった。其の時はさすがにまいった。四日間というものは全身が痛く、人と話をするのも億劫になり、同僚から「おい、このところ元気がないな」と声をかけられたこともあった。

ウエジも五十一度から六十度まで一度刻みに十本を揃え、アプローチで打ち比べてみたりもした。その結果、ロフトが一度違うと打ち出し角度と飛距離が相当に違うことに気がついた。練習を重ねるごとに、いつしかクラブの本数も増え、今はフルセットで六セット、パター二十二本、ドライバー十二本となった。其の内二本のドライバーは、球の当たるヘッド部分のメッキが剥げ落ち、ボール大の球跡が鮮明に付いている。又サンドウェッジの二本はソウルに刻印したメイカー1名が擦り切れて全く見えなくなった。クラブにはそれぞれの思い出と愛着があり、他人にあげたり処分する気にならない。ゴルフは一挙に上達しない、訓練の成果は、徐々にしか現れない。オフシャルハンデが18になった頃からいろいろなコンペにエントリーして時々優勝するようになった。いまでは優勝カップの数も四十数個になり、自宅の物置や押入れで眠っている。最近では優勝カップを持って帰ると女房が「邪魔だネー、貰うときに現金に換えて貰ったら」と不謹慎な言動を吐くようになった。中でもホールインワ



二階堂調剤薬局グループ

代表取締役 薬剤師

石井美佐子

(昭和48年卒)

二階堂調剤薬局
まえの薬局
大山調剤薬局
グリーンファーマシー

東京都板橋区南常盤台 1-30-21 TEL 03-3958-9396

現場力のあるアロマセラピストを養成する
株式会社 ビューテジオ



Athera College of Aromatherapy

学長 福場美知留

(昭和45年卒)

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町12-11

TEL : 03-3476-0037

FAX : 03-5784-3036

☎ 0120-311-298

http://www.athera.jp

